

## 四條畷市福祉計画検討委員会

H31.3.27（水）14:30~

- 出席委員 小寺委員長、北川副委員長、志村委員、高尾委員、山上委員、守屋委員、猿屋委員、中村委員、福田委員、浅井委員、福井委員、平山委員、森田委員（順不同）
- 出席職員 西岡、岡本、岸本、田中、阪本、菅井
- 田中 福祉政策課 田中です。お手元の資料【なわてみんなの福祉プラン（第3期地域福祉計画）に係る平成30年度進捗状況について】を準備してください。この中で第3期地域福祉計画の進捗を抜粋して説明します。
- 基本目標1 地域福祉への意識の醸成(1)地域の交流の推進 地域の福祉活動について、必要な調整を図り情報の一元化に努めるとともに、分かりやすい情報提供を行います。ということで今年度の取組みとして地域の福祉活動について、現在、市では、「ボランティア・NPO法人・市民活動団体等活動情報一覧」を市ホームページ及び冊子により情報発信していま

す。地域協働課との連携により、これに登録している個人又は団体数の増加を図るため、市HPはもとより利用できる媒体があれば、関係部署と連携し検討していきます。従来、今年度の実績として「保健、医療又は福祉の推進を図る活動」に絞った数を入れさせて頂いていましたが前回の検討委員会の中で福祉に絞るのではなく30年度の指標としてボランティア団体すべての数を一つの指標としたいと報告しましたがその数が下段の表に載っている数です。27年度と比べると減っているのが実状です。1か所数え間違いがありまして修正して頂きたい。105→107。登録を増加させるため、年1回の広報、HPでの呼びかけに加え、新たにツイッターでも呼びかけましたが、来年度は地区福祉委員会に出向いて、各地区に登録の呼びかけを行いたいと考えています。

(3) 地域福祉の情報提供・発信。市から発信する情報については、高齢者や障がい者等に配慮した情報のバリアフリー化を推進します。

今年度の取組みとしまして市では全庁的に高齢者

や障がい者等に配慮し、案内文やポスター等全ての文章に対してふりがなを振る基準を設け、その定着に努めます。

今年度の実績として30年度の統計はまだ未確定ですが、毎年ふりがなを振っている文書は増えており、案内文やポスター等、特に権利や命に関わるものについてのふりがな振りは、高齢者や障がい者等要配慮者に対する意識付けが定着してきています。加えてHP等も音声に対応しております。

基本目標2 地域福祉を担う人材の育成(2) ボランティア・NPO活動等の支援 福祉コミュニティセンターを拠点に、福祉団体の活動場所を提供し、活動支援を行います。

今年度の取組みとしまして高齢者、障がい者及び児童等の社会参加を促進するとともに、ボランティア活動の育成を目的として、福祉コミュニティセンターを設置・運営しています。今年度も、福祉コミュニティセンターの周知を行い、利用件数の増加を図ります。

今年度の実績として表を掲載していますが12月末までの利用件数953件、年間で換算すると1270件と増えており活用いただけています。

福祉基金助成金により、福祉活動を行う団体の事業を支援します。ということで今年度の取組みとして福祉基金助成金の活用により、市内で活躍する福祉団体を支援することで、積極的な福祉活動の振興を図ります。今年度の実績として平成30年度福祉基金助成金交付団体を掲載しております。毎年1、2件新規が増えており、予算一杯まで利用いただけています。さまざまな分野の方で利用されている口コミやHP・広報での周知で広がっているのではないかと捉えています。

基本目標3 地域での支え合いの充実(2)相談に結びつけるための支援の充実。民生委員・児童委員の周知を進めるとともに、民生委員・児童委員に対する研修の実施や活動を支援し、活動しやすい環境づくりに努めます。今年度の取組みとして地域に根差した民生委員・児童委員の存在が、

ますます重要視されてきている今般において、負担が掛かり過ぎないように、職務内容を十分精査し、効率よく活動できるような環境作りのために民生委員・児童委員制度の理解、周知を図り、スキルアップの研修を支援します。今年度の実績として民生委員活動PRのため、広報5月号で特集記事の掲載を行いました。また、大阪府が平成28年度から実施している全国初の民生委員体験インターンシップの学生受入れに協力しました。加えて、市で受け入れている社会福祉士の実習生にも同じ活動を体験してもらい、民生委員活動の周知を図り、なり手不足解消、負担軽減に努めました。

生活困窮者（経済的困窮・社会的孤立）など社会情勢を踏まえた新たな相談事業を検討しますということで、今年度の取組みとして生活困窮者自立相談支援事業及び生活困窮者等就労準備支援事業に加え、無料職業紹介事業を平成30年7月1日から開始しています。様々な媒体での事業の周知、関係機関との連携を深め、生活困窮者個々の課題

に対し、丁寧な相談支援の推進、就労に結びつくように努めます。今年度の実績としまして生活困窮者相談受付件数を新たに入れており、平成30年度無料職業紹介事業、平成31年2月末の実績も載せています。生活困窮の実績が若干減っているのは無料職業紹介を利用いただいているからです。

(3) 災害対策の推進と避難行動要支援者の支援体制の強化、避難行動要支援者名簿の整備及び定期的な更新等の管理や避難支援等関係者との情報共有等を行い、発災時に有効に活用される体制づくりを進めます。今年度の取組みとしまして昨年度に引き続き、各地区区長等と現状・今後の取組み等について話し合いを行い、個別計画策定等により実効性の高い避難支援実現への支援方法を検討していきます。また、避難支援等関係者による名簿を活用した安否確認の実施基準、報告方法等の明確化を図ります。今年度の実績ですが地域の実情把握に努めるため、各地区区長と現状・今後の課題等について話し合いをしました。より実効

性を高めるため、避難行動要支援者名簿を民生委員、自主防災組織、地区福祉委員に加え、新たに地区の代表（自治会長等）へ配布し、区長会等で今後の取り組みについて再度周知を行いました。

基本目標 4 安心して利用できる福祉サービスの充実（1）福祉に関わる権利擁護ですが、高齢者、障がい者や児童の虐待・人権侵害防止に向けた啓発活動に取り組みました。今年度の取組みとしまして高齢者、障がい者、児童各担当課、ケアマネジャー連絡会等において研修等を実施、また相談受付で取組を進めました。

今年度の実績として高齢者は尊厳ある生活が送れるよう、ケアマネジャー連絡会で成年後見人制度についての研修を実施しました。また、認知症高齢者の対応についての事例検討研修や対外的に行っている認知症サポーター養成講座を職員にも実施するなど、庁内外で意識の向上を図りました。障がい者は障がい者虐待防止、成年後見制度についての研修を実施し、一般市民や事業所の方が多

く集まりました。

児童は「子育て総合支援センター」では、虐待防止に関する研修会を、「児童発達支援センター」では、発達障がいに関する理解を深めるための研修会を市民及び関係機関向けに合計10回行いました。また、民生委員児童委員と小学校との情報交換についても継続して行なっています。

福祉サービスに関する市民の意見を把握し、改善に努めます。というところで今年度の取組みとして市が所管する社会福祉法人において、苦情解決体制整備と苦情解決体制の利用者への周知の徹底を推進しました。苦情への適切な対応により、利用者個人の権利を擁護するとともに、利用者が福祉サービスを適切に利用することができるよう支援していきます。また、各公共施設においてもチラシ等による福祉サービスの周知徹底に努めました。今年度の実績として社会福祉法の改正に伴い、社会福祉法人の内部牽制体制が強化されており、それに伴い苦情解決体制の強化も見込まれま

す。各社会福祉法人からの法改正に伴う組織の在り方についての相談、助言などの支援に加え、4法人に対して指導監査を実施し、現場での指導を行いました。

以上が説明になります。11月の検討委員会でご意見頂きました不登校の問題、学校統合の問題、働いている方の学校での役員問題等は教育委員会等の方に報告しています。

この度、皆様にご協力いただきました第4期地域福祉計画が完成しましたので配布しています。内容につきましては11月末に発送した分から誤字脱字の微修正はしましたが内容は大きくは変わっていません。概要版を見ていただきたいのですが、今までと大きく変わっている所は、基本計画、基本目標が抽象的で進捗が簡単でないという意見をいただきましたので具体的に目標を定めました。表の中で数値目標を記載し、それぞれの具体的な取組みまで載せていますので今後は今まで以上に進捗管理していきたいと考えています。

皆様のおかげで計画が完成したことをご報告させていただきます。ご協力ありがとうございました。

小寺委員長           ただ今、事務局からの説明がありましたが、この件について、ご意見・ご質問等がございましたらお願いします。

守屋委員           「なわチャン」を活用して市の PR をしたらどうか。

事務局           「なわチャン」を含め、ラインやツイッターを活用する新しい取り組みをマーケティング監が中心に行っております。時期は断言できませんが活用していればと考えています。

小寺委員長           他にご意見等ございませんか。

守屋委員           色々言われていますが予算がないと難しい。マーケティング監が赴任して 2 年経つが、なかなか

進みが緩やかなのは問題かと思います。何か理由があるのか。

事務局                   新しい広報媒体を活用できないことはない。いろんな案件がある中で適宜状況によって選んでいるので、今後活用していきたい。

山上委員               誰がどの案件にするかを決めているのですか。

事務局                   誰とは決まっていないが、案件が重なった時はその都度協議するので放送時期は分かりません。

山上委員               そうではなくて市民の要望なので、やるかやらないかだけ。それは人員がないからできないのか。人員不足の問題は予算があれば仕組みづくりができるはず。制約があるように言われているが、その決裁者は誰か。マーケティング監が一人でやっていたら問題だし、優先順位はどうなっているのか。守屋委員の意見は市民の声だから大切にしてい

ほしい。

事務局

今後の話となりますが準備を整えてやりたい。

山上委員

市民優先でなく市優先だからそういう答えになる。

障がい者や高齢者の要望を聞くのではなく市の方針を優先している。それを指摘したい。

助成金の関係は昨年と全く同じ。今年は16事業で1つ増えている。金額はほとんど変わらず300万以内ということか。

事務局

金額につきましては予算が270万ですので、超える申請があっても均等に比率を計算して270万以内の予算にしています。

山上委員

市で調べてやっているのであまり口出しはできないとして、1事業増えても予算と数円しか変わらないが、極端に減っている所もある。それは事業の中身がだめだからなのか。

事務局

中身がだめという事ではなく円単位の話になるが事業費がいくらかかるか、全体の申請額の内、何%位の申請額を占めているかを計算すると1円単位の開きが生じます。各団体の申請額も違うので特段に減ったというものではありません。

山上委員

もっと出してあげて欲しい。そうすれば手を挙げるところが増えてくるのでしっかりと考えていただきたい。16事業というのはいろいろ問題点がある。その辺りを見つめていただきたい。障がいと高齢の担当課の方では予算がないので余計に思う。それとコンサルタントの方にも質問するが、計画策定にあたって四條畷市のことをどれ位把握しているのか、地域を廻ったのか。

事務局

コンサルについては各地区を廻ったりとかはしていません。

山上委員

要は市民の立場に立って計画作成をいただきたい。

何かコンサルとして意見は言えないか。

事務局

事務局発言とさせていただいて、今後計画を推進していくにあたって福祉としての災害対策など、なるべく各地域に出向いていくことを通じて地域との関わりを深めながら活動していきたい。

山上委員

災害対策については地域の問題なので地域が主にならないといけない。そういったところに対し意見を聴いていく必要があります。コンサルの方がそこまで意見を聴いているのかなと思ったので質問した。答えられなくても構いません。

委員長

他に質問はありませんか（確認）。無いようなのでこの件についての審議は終了といたします。